

薬連ハイライト

全国若手薬剤師フォーラム2023開催される！

令和5年10月8日(日)9日(月・祝),クロスウェーブ船橋にて全国若手薬剤師フォーラム2023が「仲間を増やすために何をすべきか、あと1票を獲得するために」をテーマに4年振りに参集して開催された。

まず始めに川田幹事長より開会の挨拶があり、来賓として本田あきこ参議院議員が挨拶された。

竹本総務よりオリエンテーションが行われた後、本田あきこ参議院議員より「国政報告」と題して政務官の立場での活動、参議院の比例選挙は組織の戦いであることなどが述べられた。

続いて澤勢瑞城長崎市議会議員(薬剤師)より「組織力強化の大切さとその効果」と題して、薬局薬剤師としての活動、薬剤師会活動を通して政治の大切さに気付き政治家を目指したこと、自らの体験から仲間づくりの大切さについて講演いただいた。

次に「若手薬剤師フォーラムの開催実践発表」として青森県、大阪府、和歌山県のそれぞれ参加者より発表いただき、川田幹事長の総括ではフォーラム等で地元国会議員と交流することの必要性について述べられた。

その後、会場を移動し都道府県規模別グループに

分かれて「自分たちならどのように仲間を増やし、選挙にのぞむか」をテーマにスモールグループディスカッションIを行った。

夕食を挟んで行われたスモールグループディスカッションIIおよび幹事長と語る会は大いに盛り上がり、参加者同士の繋がりががっかりとできたことが感じられた。

翌日は、山本会長の開会の挨拶に始まり、来賓として神谷政幸参議院議員に挨拶いただいた。スモールグループディスカッションの発表、記念撮影の後、「本田あきこ中央後援会支援者名簿収集」と題して名簿収集がなぜ必要なのかについて大澤副会長に講演いただいた。

最後に大原副幹事長より総評および閉会の挨拶があり、フォーラムは終了した。

その後、希望者は各自移動して国会議事堂見学を行い解散となった。



オレンジ日記

2023年10月26日

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



先月の本稿にて、政府の一員としての任を終えたとお伝えしました。10月20日に第212回臨時国会が開会し、参議院自民党の国会対策副委員長として円滑な国会運営に務めを果たそうと思っておりましたところ、急遽10月26日、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官を拜命いたしました。

文部科学省での私の担務は「科学技術・学術」と「文化」となりました。文部科学行政は薬学とも関係が深く、アカデミアや研究機関などによる基礎研究を後押しする役割も担っていますので、創薬やイノベーションの推進にも励んでいきたいと思っております。

大臣政務官就任に伴って文教科学委員会所属になり、厚生労働委員会を抜けることになりました。当選時から一貫して所属し、自らの専門性を生かせる思い入れの深い委員会ですので必ず戻ってまいります。また、厚生労働大臣政務官の時期と同様に、委員会質疑や部会などの与党自民党の平場での発言は控えなければなりません。これまで私が注力してきた課題と信念に基づく政治活動は変わりません。

今年も残すところ2ヵ月を切りました。物価高・賃上げ対応のための総合経済対策および補正予算の成立と確実な執行、そして医薬品の供給不足解消につなげるための薬価制度の見直しやいわゆる「3報酬改定」に関して確実に成果を上げるための大事な時期です。引き続き、神谷政幸先生、薬剤師会および薬剤師連盟と共にチームとなって力を尽くしてまいります。何卒ご指導をよろしくお願い申し上げます。

政幸だより

自由民主党青年局海外研修
(台湾・パラオ)

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



令和5年8月20日から27日まで令和5年自由民主党青年局海外研修(台湾・パラオ)に参加しました。

青年局は45歳以下の国会議員や全国の地方議員、自営業者、会社員、学生などの党員で構成されています。青年局に与えられた大きな役割の1つとして、自民党において国交のない台湾との唯一の窓口となり、毎年日本・台湾間の相互訪問を行うなどの国際交流が挙げられます。

近年、台湾は半導体産業が急成長を遂げました。日本政府は半導体世界大手の台湾積体電路製造股份有限公司(TSMC)を誘致し、国内最先端の半導体製造工場が熊本に建設されています。半導体に加えて台湾はバイオスタートアップの台頭も目覚ましく、台湾のバイオ産業は著しく成長しています。今回の訪問では、蔡英文総統との意見交換の場において質問が許され、私からバイオ医薬品開発と臨床試験について質問し、総統から直接回答をいただくことができました。

台湾の訪問を終えた後、次にパラオを訪問しました。パラオは第一次世界大戦から第二次世界大戦の間、日本の委任統治下にあり、日本の影響を受けた文化が多く残っている親日国です。台湾との外交関係を維持している国の1つでもあります。第二次世界大戦中に行われたペリリュー島の戦いで亡くなった日本軍の戦没者の慰霊を行い、厚生労働省の事業として実施している遺骨収集の現状を視察しました。この戦いにおける日本軍の戦死者は10,022人、負傷者446人、生存者は34人とされています。戦死者の内2,200柱の遺骨は未収集であり、ペリリュー島以外のパラオ共和国内にあるとされている約5,000柱の遺骨も未収集とのことでした。遺族の高齢化も進んでいることから、1日も早い解決が求められています。